



Sapporo
education and
culture hall
news

ŕ a k u

64





札幌市民芸術祭ホームページ
スマホからはこちら

札幌市民芸術祭の歴史

実行委員会編成(1973)まで

昭和22(1947)年/札幌教育委員会主催「第1回市民美術展」が開催(現在の「市民美術・書道展」に該当)

昭和31(1956)年/「新人音楽会」開始

昭和32(1957)年/市民会館の改装に伴ってはじめられた「市民劇場」を一層充実させようという気運が高まっていた

昭和48(1973)年/札幌市民芸術祭実行委員会が組織される

実行委員会編成10年(1973-1982)

札幌市民芸術祭の開始に伴い、「協賛事業(芸術祭参加公演)」「新人邦楽祭」「市民吹奏楽祭」が開始。昭和23(1948)年から「市民文化祭」として開催されていた「市民合唱祭」は2部制へと変更となる

昭和48(1973)年/顕彰事業が始まる

昭和55(1980)年から「ギター・マンドリン音楽祭」が開始

実行委員会編成20年(1983-1992)

昭和56(1981)年度に市民ギャラリー開館を記念して「札幌美術展」「札幌書・華・手工芸展」が開催。それらを引き継ぐ形で昭和58(1983)年度事業として、「札幌芸術展」が開催。「工芸」「絵画・彫刻」「書・いけ花」の3つの部門とし、3年1巡で継続開催された。第9回を終了した時点で、新しい企画の「さっぽろ美術展」を平成3(1991)年度より開始

昭和58(1983)年から「市民書道展」が開始

昭和59(1984)年から「さっぽろ市民文芸」が開始

平成元年(1989)に実行委員会事務局が市教委社会教育部から札幌市教育文化財団へ移籍

平成3(1991)年/「市民書道展」と「市民美術展」が統合され、現在の「市民美術・書道展」となる

実行委員会編成30年(1993-2002)

平成6(1994)年/20周年記念「さっぽろ市民芸術祭史」発行

平成8(1996)年/ギター・マンドリン音楽祭が、ギター音楽祭とマンドリン音楽祭に独立して開催

平成10(1998)年/第20回札幌芸術劇場「北の都・日本舞踊フェスティバル」(札幌市民芸術祭実行委員会25周年記念)開催

平成11(1999)年/札幌市民芸術祭事業「さっぽろ美術展」を芸術の森事業部へ、「札幌芸術劇場」を教育文化会館事業部へ移管

実行委員会編成40年(2003-2012)

平成16(2004)年/第1回市民写真展開催

平成20(2008)年/邦楽新人音楽会を邦楽演奏会と改めて開催

平成21(2009)年/「さっぽろ市民文芸第24号(2007年度版)」特別賞受賞作品『三弦橋まで』(作・青山郁子)を、舞台芸術工房森の会が舞台化し上演

平成24(2012)年/札幌市民芸術祭ロゴマーク作成

平成24(2012)年/札幌市教育文化会館開館35周年記念コネ・クートなないろコレクションにおいて「札幌市民芸術祭なないろコンサート」開催

実行委員会編成50年(2013-2022)

平成25(2013)年/さっぽろ市民文芸第30号記念特集号発行

平成26(2014)年/札幌市民芸術祭事業をSIAF2014連携事業として開催

平成30(2018)年/新人音楽会にオーディエンス賞を創設

はありません。特に優れた公演や作品を発表した個人や団体に対して「札幌市民芸術大賞」「札幌市民芸術祭奨励賞」を贈呈し、参加者の目標と励みになっています。歴代受賞者の多くが受賞を機に活動の場を広げ、道内外で活躍したり、指導者として地元で後進の指導にあたるなど、札幌の芸術文化の振興に貢献しています。

今年も1年を通して教育文化会館をはじめ札幌市内各所で行われる札幌市民芸術祭。市民が芸術文化の担い手になると同時に芸術に触れる機会として多くの市民に愛され続けています。

VOICE Sapporo Art Festival Award

札幌市民芸術祭【受賞者の声】

新人音楽会



則竹 正人さん

[昭和57年度新人音楽会大賞受賞、現新人音楽会委員]

札幌に来たばかりの頃「知ってもらえる機会だから」と新人音楽会を紹介され出場しました。当時の札幌は個性的な音楽家の方が大勢いましたね。そんな中で大賞を頂けたことはとても嬉しかったのを覚えています。大賞受賞の効果で僕の名前はすごい勢いで世間に広まり、これがきっかけで「札幌で頑張ろう」と思えるようになりました。札幌市民芸術祭は「自分を試す場所」であり出発点となる場所です。参加される方は、出場したことを良い思い出にして終わりではなく、ここをスタートと思って研鑽を重ね今後の活動に繋げてほしいですね。

市民美術・書道展



阿部 心さん

[令和5年度書道部門奨励賞受賞]

札幌市民芸術祭奨励賞を頂き、自分が書く「かな」について考えるようになりました。「書」は書く人の線質や作品にのせる思いなどによって、その人しか書けない作品が出来上がります。賞をきっかけに自分にしか書けない「かな」はどのようなものか作品をじっくり見つめる時間が増えました。そうやって作品に向き合えるようになったことは書道をしていく上で、大きな一つの進歩だと感じています。今後は墨の潤濁のつけ方や線の表情などの基礎的な技術向上は勿論、作品を見る力を養うことにも注力して自分の作品に還元していきたいと考えています。

特集 1

札幌芸術文化の歴史とともに歩む札幌市民芸術祭

札幌市民芸術祭は、札幌市民による文化芸術活動の発表の場として1973年に開始。

現在では音楽・演劇・舞踊・美術・文芸など全10部門の催しに来場者含め

3万人あまりの人々が参加し、鑑賞の場としても芸術を愛する市民に

欠かせない存在となりました。その歴史を紐解くと芸術祭として始まる以前、

戦後からはじまる市民と芸術文化の歴史が存在しました。



芸術文化活動の発表場所や鑑賞機会の不足を解消しようと、1979年に札幌市内の芸術文化関係者からなる「札幌市民ギャラリー建設期成会」が発足。ギャラリーの建設を強く求める要望が札幌市に出されたのを機に、南2条東6丁目にあった一条中学校跡地にギャラリーを建設する計画がスタートしました。

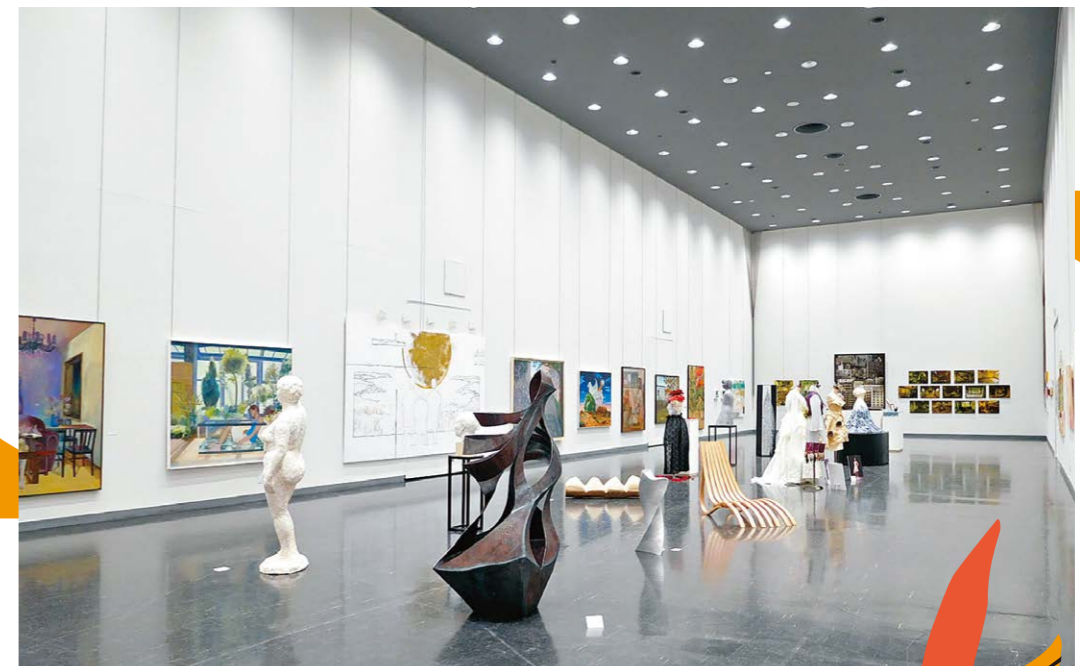
各分野の芸術文化関係者や市民による建設推進委員会とともに基本構想を検討し、1982年に天井高や広さの違う複数の展示室を備えた札幌市民ギャラリーが開館。建設推進委員会によって、実際に利用する人々の声が反映された空間は、多くの人にとって利用しやすく繰り返し利用を続ける人が今後も絶えません。

札幌市民ギャラリーがもたらしたのは発表の機会だけではありません。従来、市民による作品を鑑賞できる場はとも限られていましたが、市民ギャラリーの開館によって、広い世代が鑑賞できる場が増え、その作品を実際に制作体験できる場も増えました。

市民からの働きかけに始まり行政が協働することで誕生した札幌市民ギャラリーは、現在も変わらず札幌の芸術文化の「今」を体験できる貴重な場所としてあり続けています。



広々とした展示室や展示ホールは、ジャンルを限定せず大きな作品も余裕をもって展示することができます。観るだけでなく、参加できるワークショップやコンサートなども開催され、併設されたカフェ「加藤商店」や休憩スペースは、日々多くの来館者で賑わっています。



[札幌市民ギャラリーの成り立ち]

開館に向けて（～1981）

昭和50年代、札幌市民の芸術文化活動が年々活発化し、さらなる関心の高まりが見込まれるが、発表・鑑賞する施設が不足していた

昭和54(1979)年、市内の芸術文化関係者等からなる「札幌市民ギャラリー建設期成会」が発足。市民ギャラリーの早期建設に向けた強い要望が出されたことを受けて、ギャラリー建設計画が策定され、市役所内部での検討を進めるとともに、昭和55(1980)年に基本設計が作成される

昭和56(1981)年3月、市民ギャラリー着工

開館10年(1982～1992)

昭和57(1982)年、近代美術館のギャラリー部分を発展させた形で機能を引き継いだ市民ギャラリーが完成し、市民の使用できる場としての本格的な空間が生まれる

オープン記念として「札幌美術展」を実施。同展は札幌市民である美術家(絵画・彫刻)の殆どが参加して開催された。また、財団法人札幌市教育文化財団が札幌市から市民ギャラリー運営管理の委託を受ける

昭和58(1983)年、市民ギャラリーシンボルマークが決定

開館20年から現在(1993～2024)

平成12(2000)年、市民芸術祭実行委員会から美術部門が独立し、さっぽろ美術展実行委員会として市民ギャラリー内に事務局を設置(～平成17年3月)

平成28(2016)年、入場者が500万人を超える

VOICE Sapporo Citizens Gallery Staff

札幌市民ギャラリー [スタッフの声]



新庄 文枝さん

札幌市民ギャラリー/振興課 振興係

42年前、作品を発表したい『創造者』と、いろいろな作品を観たい『鑑賞者』との出会いの場として生まれた札幌市民ギャラリーでは、現在もお、一年を通じて数多くの展覧会が開催されています。絵画や書道はもとより、工芸や写真、版画に彫刻、珍しいものでは盆栽など。しかもほとんどが入場無料なうえ、いつ来てもほぼ週替わりで新しい作品が見られるという、実はとても刺激的な場所です。

そうした設置目的をメインとしつつ、わずかな空室を活用してギャラリー主催のイベントも企画しています。予算規模は決して大きくはありませんが、市内でも子どもの数が増加している稀有な土地柄、子ども対象事業に力を入れています。ベビーカーのままでも入場できる子ども映画会をはじめ、学校の長期休み期間を中心にワークショップなどを開催する傍ら、親しみやすいPRキャラクターを創り、いかにこのギャラリーに興味を持ってもらおうか試行錯誤の日々です。

近い未来、友達同士でもふらっと当館に立ち寄り、「この絵、なんか好き」「この作品かっこいい」「自分もやってみたいな」、そんな光景が見られたら素敵だなと思っています。



札幌市民ギャラリー Sapporo Citizens Gallery

〒060-0052 北海道札幌市中央区南2条東6丁目

TEL.011-271-5471

開館時間 10時～17時(催しにより異なる場合有)

スマホからはこちら



PRキャラクター
レオナルド・ピヨンチ

芸術文化の出会いの場 札幌市民ギャラリー

多くの作品と直接出会えるギャラリー。作品を間近に観ることは作品の質感や大きさを伴って鑑賞者に多くの感情をもたらします。発表する側にとっては作品を観た人の反応を直接感じられる貴重な機会。そんなギャラリーの中でも、多くのリピーターを生むほど愛される札幌市民ギャラリー。その成り立ちからご紹介します。

さっぽろ人形浄瑠璃あしり座代表／札幌市こどもの劇場やまびこ座、札幌市こども人形劇場こくま座芸術監督、福島県出身。北海道教育大学函館分校在学中に人形劇を始める。自身の劇団活動のほか、アーティストと協働しながら芸術性の高い人形劇作品をプロデュースし、国内外で公演を企画上演。札幌市及びその近郊の地域において、幅広い世代を対象に人形劇指導を行うなど後進の育成に取り組み。これまで演出指導した人形劇作品は200本を超える。



さっぽろ人形浄瑠璃あしり座代表

矢吹 英孝



術



化



Art
Culture
Human

04

人間よりも人間らしい心の機微を表現する人形劇の世界

札幌は「こどもの劇場やまびこ座」「こども人形劇場こくま座」という、子どものための専門劇場が2つある全国的に見ても珍しい街です。矢吹さんはそんな2つの劇場で芸術監督を務め国内外で人形劇作品をプロデュースすると同時に、自身の劇団「さっぽろ人形浄瑠璃あしり座」の活動で人形浄瑠璃文化を北海道に広めるなど、全国的にも注目を集めています。人間以上に感情を表現できる人形を用いて行う人形劇で「人形を遣う」ことに魅力を感じていた矢吹さんは、人形浄瑠璃には伝統芸能でありながらも現代の私たちが生活の中で忘れてきている普遍的な人の情愛や生きるための心構えが詰まっていると感じました。それを繊細かつ大胆に、人形ならではの形で表現する人形浄瑠璃に惹かれ、あしり座の結成に携わります。今年で30周年を迎えるあしり座は今年8月には札幌演劇シーズンでレパートリーの中から人気の3作品を上演。10月には三十周年記念公演第一弾として古典の大曲をやまびこ座で披露。そして来年2月には第二弾とし

て教文大ホールでオリジナルの人形浄瑠璃「大黒屋光太夫ロシア漂流記」の通し狂言が行われます。あしり座の活躍は北海道ではほとんど観る機会さえなかった人形浄瑠璃ファンを着実に増やしています。

2つの子ども専門劇場の存在が示すように、札幌ではあしり座登場以前から人形劇や児童文化普及の取り組みが盛んでした。そこに登場したあしり座は人形劇に興味を持つ層をさらに広げます。矢吹さんはそんな人達それぞれの興味や世代に合わせた人材育成を行うことで人形劇の担い手を多く輩出。新たな担い手により鑑賞機会が増えると同時に、興味を持つ人々の受け皿があることで担い手が増える。人形劇における好循環が札幌では続いています。先人たちが築いた礎を受け継ぎながら、矢吹さんが新たな挑戦を加えたことで人形劇の可能性は大きく広がりました。新たな担い手達がこれらを更に受け継いでいくことで、札幌の人形劇文化はさらに豊かになっていくでしょう。

EVENT INFORMATION

[イベント情報]

札幌市民芸術祭 SAPPORO ART FESTIVAL

ギター音楽祭 出演者募集

クラシックギター愛好家が出演するギター音楽祭の出演者を募集します。
【応募受付期間】令和6年6月1日(土)～6月20日(木)

オーディション
日時／令和6年7月7日(日)
会場／札幌コンサートホールKitara 小ホール

ギター音楽祭
日時／令和6年9月8日(日) 開演13:30(予定)
会場／札幌コンサートホールKitara 小ホール

新人音楽会 出演者募集

札幌市を中心に活動する若手クラシック音楽家が出演する新人音楽会の出演者を募集します。
【応募受付期間】令和6年7月1日(月)～7月31日(水) (予定)

オーディション
日時／令和6年9月17日(火)、18(水)
会場／札幌コンサートホールKitara小ホール
部門／ピアノ、声楽、管弦打楽器、作曲(譜面審査)

新人音楽会
日時／令和6年11月3日(日・祝) 開演13:00(予定)
会場／札幌市教育文化会館 大ホール

邦楽演奏会 出演者募集

三曲(箏、三絃、尺八)の演奏家共演する邦楽演奏会の出演者を募集します。
【応募受付期間】令和6年7月1日(月)～7月19日(金)

オーディション
日時／令和6年8月18日(日)
会場／札幌コンサートホールKitara 大リハーサル室

邦楽演奏会
日時／令和6年11月10日(日) 開演13:30(予定)
会場／札幌市教育文化会館 小ホール

第75回 市民美術・書道展 作品募集

市民の皆さんが描いた美術・書道作品を募集します。全ての出品作品が展示されます。
【応募受付期間】令和6年10月15日(火)～11月14日(木)

応募部門
美術／油彩画、水彩画、日本画、版画、パステル画、その他
書道／漢字、かな、近代詩文書、墨象、篆刻、刻字

市民美術・書道展
会期／令和6年12月11日～15日 10:00～17:00
会場／札幌市民ギャラリー

お問い合わせ 札幌市民芸術祭実行委員会事務局 〒060-0001 札幌市中央区北1条西13丁目 札幌市教育文化会館内 TEL.011-271-5822 (平日9:00～17:00 土日祝日・年末年始を除く) スマホはこちら

札幌市民ギャラリー Sapporo Citizens Gallery

陶芸体験教室

初心者の方でもお気軽に体験していただけるワークショップです。北海道の土を使ってオリジナルの花器や茶碗などをお作りいただけます。乾燥～焼成を経て、完成作品は10月頃にお渡しします。

日時／令和6年7月19日(金) ①10:30～12:30 ②14:00～16:00
令和6年7月20日(土) ③10:30～12:30
会場／札幌市民ギャラリー 1階 第2展示室
料金／2,200円(材料費込) 定員／各回20名(合計60名)
申込／6月19日(水) 9:00より、電話にて受付 ※先着順

七宝体験教室

小中学生を対象としたワークショップです。七宝焼でオリジナルキーホルダーをお作りいただけます。

日時／令和6年7月27日(土) ①10:30～12:30 ②13:30～15:30
会場／札幌市民ギャラリー 2階 予備展示室
料金／1,000円(材料費込)
定員／小中学生のみ、各回15名(合計30名)
申込／6月27日(木) 9:00より、電話にて受付 ※先着順

夏休み子ども映画会

ディズニーの「ピーターパン」を大きなスクリーンで上映します。小さいお子さまにもご利用いただきやすいよう、会場前方にマット席をご用意しております。

日時／令和6年8月3日(土)
開演10:30(開場 10:15)
会場／札幌市民ギャラリー 2階 第5展示室 料金／入場無料
定員／80名 申込／事前申込不要、当日直接会場へ

夏休み おえかきワークショップ

“おえかき”をテーマにしたワークショップを開催！自分の描いた絵が水槽を泳いだり、手描きのバッグや缶バッジなどお作りいただけます。

日時／令和6年8月18日(日) 10:00～16:00 ※ワークショップ受付は10:15～15:00
会場／札幌市民ギャラリー 2階 第4展示室
料金／入場無料 ※ワークショップでの制作費は200～500円
定員／無 申込／事前申込不要、当日直接会場へ

お問い合わせ 〒060-0052 札幌市中央区南2条東6丁目 TEL. 011-271-5471 (9:00～17:00 祝日を除く月曜と年末年始休館)